



死刑について 考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会「そばの会」

東京都荒川区南千住1-5-9-6-302

<http://sobanokai.my.coocan.jp/>



街を行くみなさん。死刑の問題については、みなさん一人一人がさまざまな意見をもちのことと思います。

わたしたちは毎月一度、たくさんの死刑囚がいる東京拘置所のそばで、「死刑について考えてみませんか」というビラを配ってきました。

死刑制度については、大雑把に言えば、①あったほうがよい、②廃止したほうがよい、③条件が整えば廃止したほうがよい、という意見があります。

ところで、なぜ死刑があるのか？なぜ執行するのか？と問われた法務大臣や法務省の職員の答えはパターンが決まっています。ひとつは、そう定めた法律があるからだ、というものであり、もうひとつは世論の多数が死刑を求めているからというものです。

国連の機関から、日本政府は「死刑を廃止していくための努力が足りない」とたびたび指摘されてきており、今もその状況は変わりません。法律があるからだというのは、ここでは理由になりません。どうしてその法律を改めないのかと迫られているのですから。そこで世論調査の結果が持ち出されます。世論が死刑を求めているからというものです。

私は世論調査を使って人権の問題を議論するという日本政府の態度に疑問があります。少数者であっても守られねばならないものが「人権」というときの核心と思うからです。

二〇一六年にやっと成立した「ヘイトスピーチ解消法」も、この国で生活する少数者（マイノリティ）を守るためにつくられました。人の生死や人権問題は多数決で決めるわけにはいきません。

ただ、「それでは被害者の人権はどうなるんだ！」という声があることも事実です。そもそもは、被害者の人権が損われたことにあるからです。犯罪被害者や遺族の方々の人権がないがしろにされている現実も確かにあります。その生活を支えたり、相談や悩みに応える取り組みもあります。そうした運動を担っている方の中にも死刑制度に疑問を持つ人もいないわけではありません。その活動はむしろ「犯人を死刑にすることが被害者・遺族の助けになるのでしょうか」と問いつけていくようにも思えます。

みなさんはどうお考えになりますか？